資料２－４

第４章　現状・課題

各古墳の現状と課題を整理
　総括的な現状と課題については次回委員会で審議

１．保存(保存・管理)

（１）保存（保存・管理）の現状

（２）保存（保存管理）の課題

２．活用

（１）活用の現状

（２）活用の課題

３．整備(修理、施設整備も含む)

（１）整備(修理、施設整備も含む)の現状

（２）整備(修理、施設整備も含む)の課題

（旧保存管理計画　５.各古墳の概要 P46～130 を整理

○各古墳の現状・課題

①いたすけ古墳　　現状・課題　　：

百舌鳥古墳群のほぼ中央にある前方部を西に向けた前方後円墳で、古墳の周囲には盾形の周濠が巡り、濠の南側には堤が築かれている。周囲には善右ヱ門山古墳の他に、かつて播磨塚古墳、吾呂茂塚古墳が存在していた。

濠の周囲には安全防犯対策上、護岸・フェンスと門扉を設けて管理している。周濠は、水生植物の繁茂がみられる。この周濠の水については、防火用水として機能しており、水位の管理調整は世界遺産課が行っている。前方部西側は周濠堤に沿って民家が並んでいる。墳丘上の樹木は昭和 40 年代に実施した大規模な刈込と、近年の竹伐採などの環境整備により、墳形が良好に視認できる。西方ＪＲ阪和線、大仙公園への眺望も良い。北隣のいたすけ公園に標柱・説明板を設置している。

墳丘は、後円部東側で拡大していた竹林の除去に取り組んでいる。繁茂した竹の適正な管理は複数年を要する。墳丘外周部及び周濠東側の堤の樹木の成長が著しく、倒木の危険がある。墳丘にはタヌキが生息しており、営巣による遺構面への影響などの懸念がある。周濠は、水の流入はなく雨水に頼っているため、水の流れは滞留したままとなり水質の悪化が近年顕著となってきた。また、堺市外来種アラートリストのコイやミシシッピアカミミガメ等が生息している。更に、水際の墳丘裾の浸食が著しい。また、濠内には昭和 30 年頃に造成のためにかけられた橋の残骸が残っている。

墳丘上の樹木と浸食された墳丘裾

~~周濠に倒れ込む竹や樹木~~（削除）

史跡標柱と説明板（更新）

安全管理柵・門扉・説明板（更新）

開発時に架けられた橋の残骸

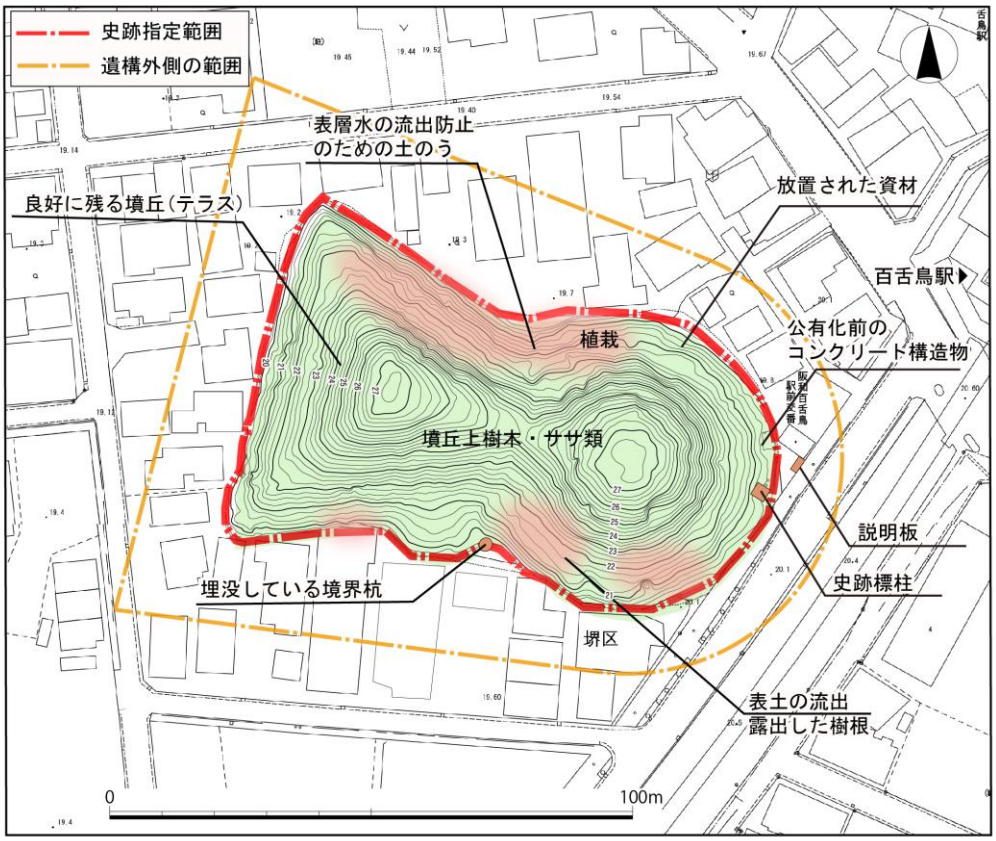
２箇所に設置された樋(写真は東側)

現状・課題

②長塚古墳　　現状・課題

古墳は、ＪＲ阪和線百舌鳥駅の南西側、信太山台地上に位置し、かつては古墳の北・南側にそれぞれ谷が通っていたが、造成により埋められている。周濠は既に埋まり、墳丘に住宅が接している。また、長塚古墳の南側に狐塚古墳や茂右衛門山古墳が存在していた。墳丘は、後円部の一部が線路に沿って通る市道に接し、フェンスから墳丘斜面の形状を確認することができる。また、長塚古墳の史跡標柱とともに、かつて百舌鳥駅付近にあった皇陵参拝の標柱が置かれている。墳丘にはアラカシやコナラなどの高木があり、墳丘裾には植栽されたビワやキョウチクトウなどがみられる。地被類はササ類の群落がある。保存管理計画策定後に樹木の剪定・間伐を行い、下草の育成を進めるとともに墳丘の視認化を図っている。

史跡の周囲には、排水のための施設がなく、応急処置として植生土嚢を並べることで、民地への流入を緩和している。しかし、雨水による墳丘表土の流出で樹木の根茎が吐出している部分も見られ、枯損の要因の一つになるうえ、境界標が埋没している箇所も存在する。また、墳丘裾には公有化前に利用されていたコンクリートブロックの構造物が残る。~~公道への接道範囲が狭く、維持管理や古墳見学に支障が生じている。~~



表層水の流出防止のための土のう

放置された資材

コンクリート構造物

史跡標柱

表土の流出

埋没している境界杭

埋没している境界杭

露出した樹根

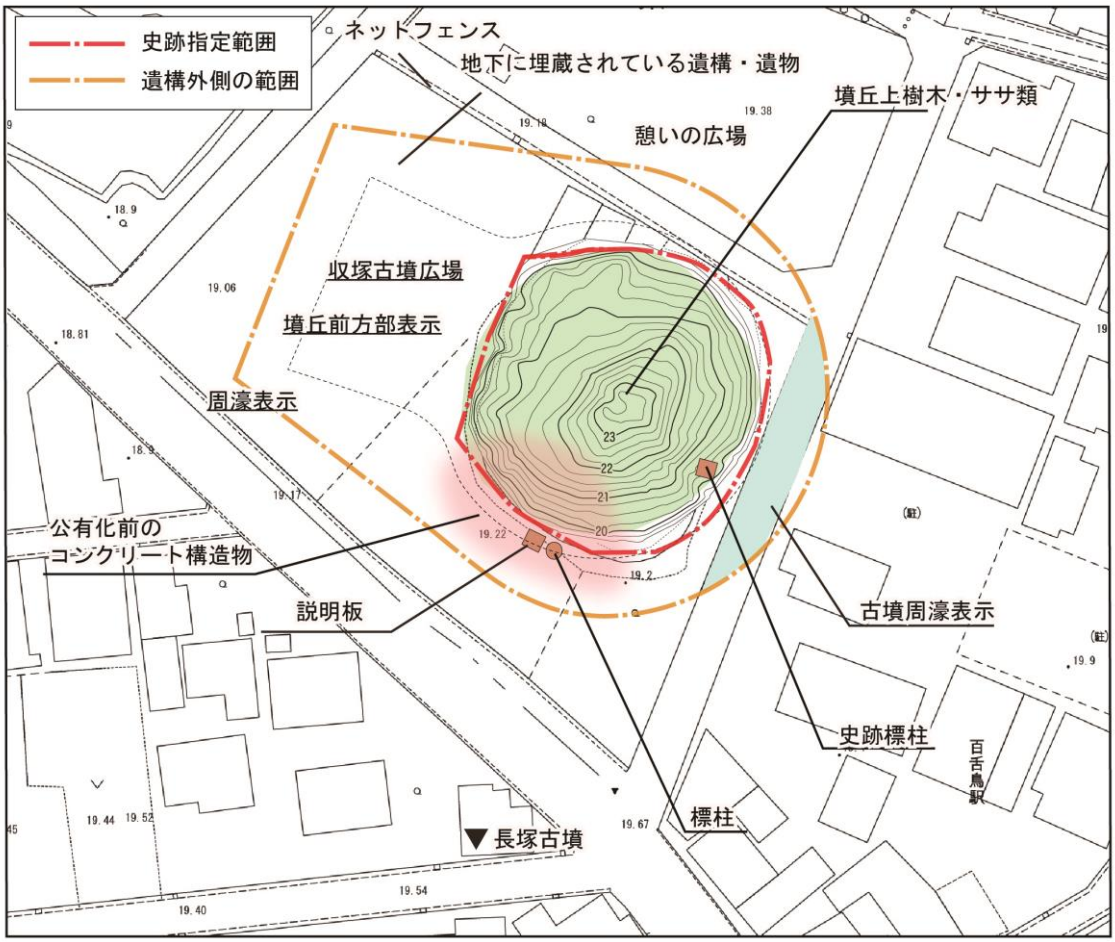
現状・課題

③収塚古墳　　現状・課題

信太山台地上に位置し、かつては古墳の北側に谷が通っていたが、造成により埋められている。現在、周濠は既に埋まり、前方部は削平されているため、外観は円墳状を呈する。また、仁徳天皇陵古墳（大山古墳）との間に眺望を遮るものが少なく、両者の位置関係の把握が容易である。また、南方の長塚古墳が見える。

史跡範囲は墳丘として視認できる後円部で、木柵により墳丘への立入りを防止している。また北側及び東側の道路に接してフェンスを設置している。古墳及び周辺は、大仙公園の公園用地として公有化されており、管理は大仙公園管理事務所が行っている。墳丘上にはアベマキ、ハゼノキなどがあり、地被類はササ類の群落が見られる。東側の道路・住宅を除き収塚古墳広場として開放され、北側は道路を挟んで憩いの広場として遊具が設置されている。また、古墳北側を除いて前方部墳丘並びに周濠の範囲を明示し収塚古墳広場として整備されている。史跡内東側にある史跡標柱と、南側史跡範囲に接する説明板が離れているものの、古墳名のある標柱があり一体的な案内・解説に努めている。

史跡の範囲を、周濠を含めた範囲に拡大した時には仁徳天皇陵古墳（大山古墳）並びに長塚古墳との相互の関係が把握できるような整備や修景が必要である。



収塚古墳から見た仁徳天皇陵古墳（大山古墳）

墳丘上の樹木や下草のササ類

フェンスにかけられた説明板（更新）

フェンスと古墳周濠表示（更新）

史跡標柱

標柱

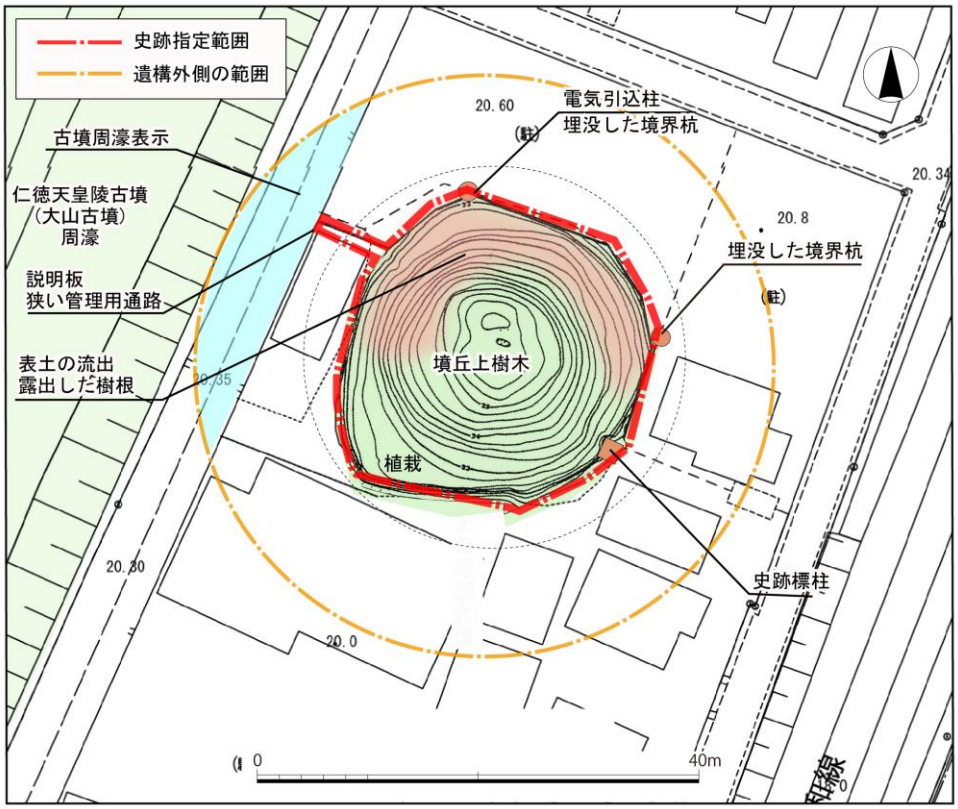
墳丘裾の公有化前のコンクリート構造物（削除）

現状・課題

④塚廻古墳　　現状・課題

維持管理では草刈と枝打ち、危険木の伐採などを行っている。墳丘上はアラカシなどの広葉樹がある。また、墳丘裾にはビワやサルスベリなどの植栽がみられる。周濠は、既に埋没し住宅や駐車場などになっているが、史跡西側の道路に、周濠の範囲を舗装によって明示している。

史跡は、半間程度の狭小な幅で接道しているのみで、重機や車両の利用にあたっては近隣駐車場の協力を得ている。境界確定後に周辺地盤上昇に伴い、境界杭が地中に埋没するのを防止するために塩ビ管で保護されている。墳丘斜面において表土の流出があり、一部で樹根の露出がみられる。昭和 14 年３月に大阪府が設置した史跡標柱と、接道している門扉に説明板を架けている。史跡標柱は、東方の鉄道線路を正面として配置され、西側接道からは見えない。



史跡標柱

説明板

史跡内の電気引込柱と埋没した境界杭

狭い管理用通路

古墳周濠表示

表土の流出による露出した樹根

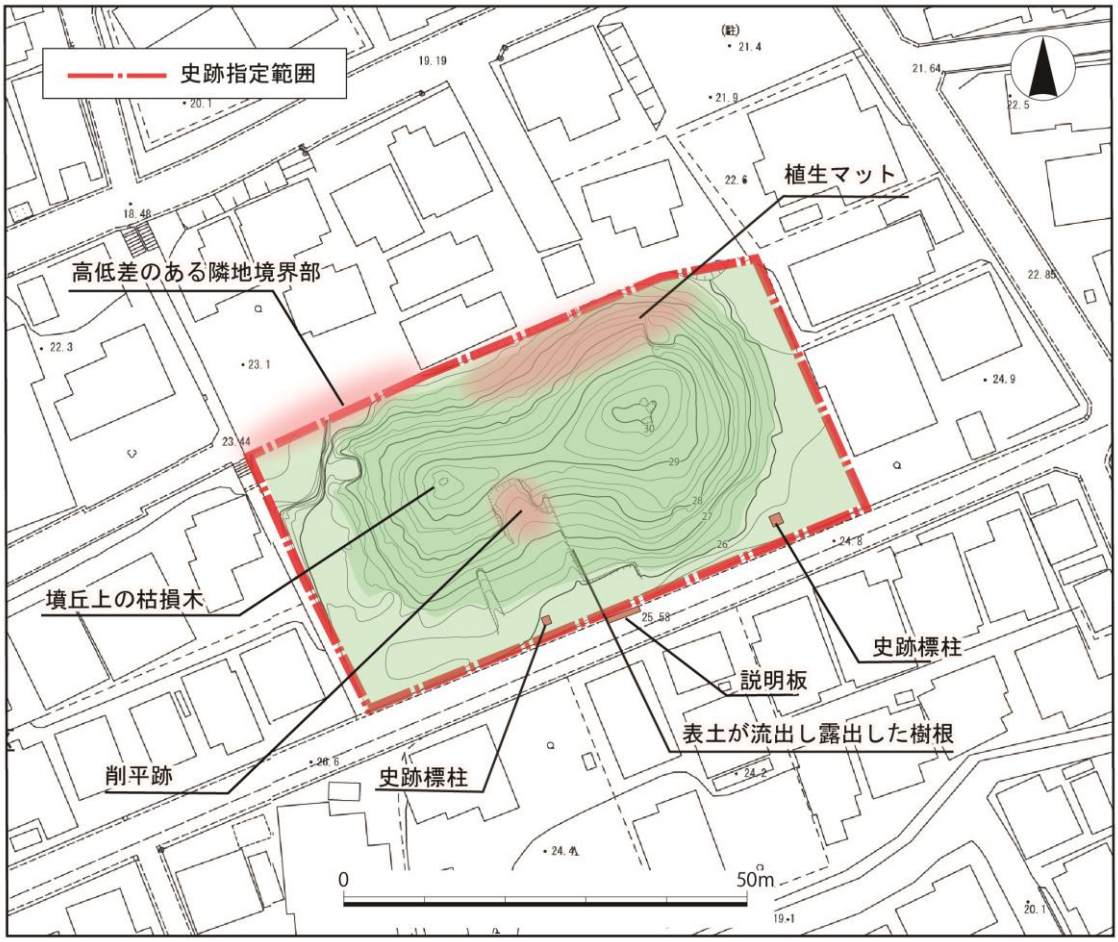
塚廻古墳からみた仁徳天皇陵古墳(大山古墳)

現状・課題

⑤文珠塚古墳　　現状・課題

墳丘の前方部南面のくびれ部寄りの部分が大きく削平を受け、変形している。また、住宅地造成により史跡の外周は削られており、旧状をとどめていない。墳丘はアベマキやアラカシを中心とした落葉広葉樹が自生する。史跡の東・南・西の三面は忍び返し付の景観に配慮したフェンスが巡っており、北面は擁壁上にネットフェンスが設置されている。北方には履中天皇陵古墳(ミサンザイ古墳)をみることができる。

墳丘の表土は流出し、樹根が露出している。そのため墳丘の一部で樹勢衰退がみられる。北から東斜面は、日当たりが悪く、地表は湿った状態で樹根周囲には苔が生育している。また、南側斜面の地被類はわずかにササ類とどんぐりが芽を吹いた実生がある程度で、裸地部分が多い。保存管理計画策定後には樹木の剪定、間伐を行い、下草の育成を進めるとともに墳丘の視認化を図っている。北側は、ブロック擁壁などの土留めが設置されている。



墳丘上の枯損木（削除）

高低差のある隣地境界部

植生マット

前方部の削平跡

表土が流出し露出した樹根

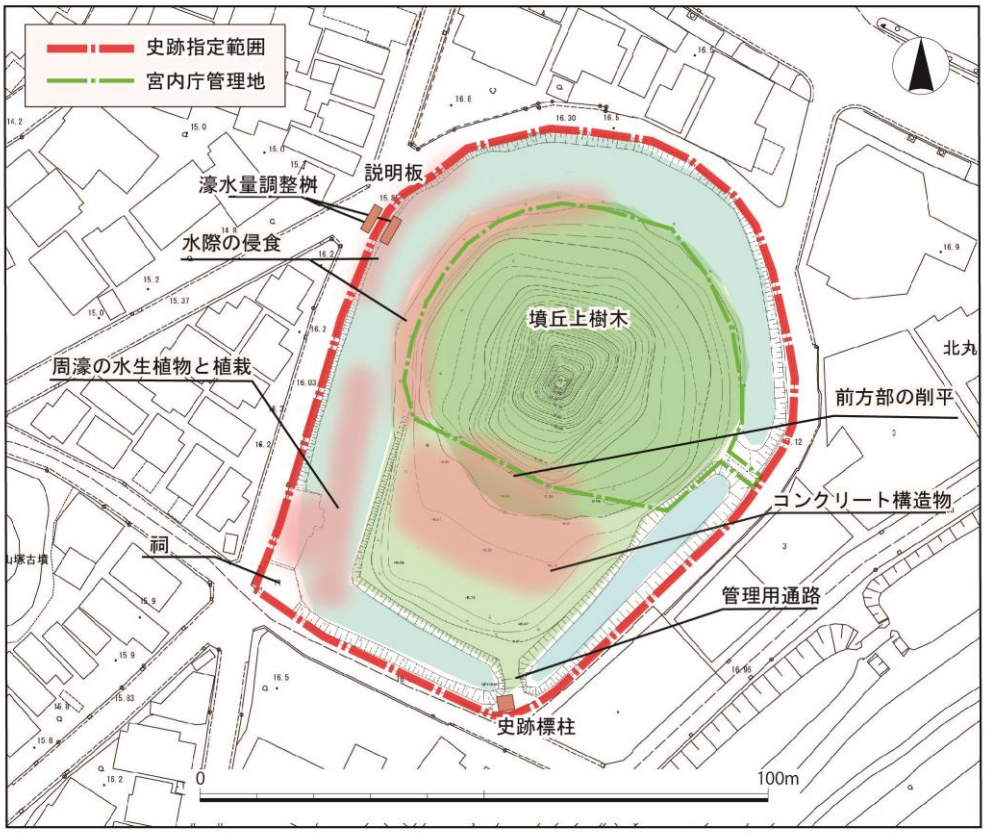
道路に面して設置されている説明板（更新）

現状・課題

⑥丸保山古墳　　現状・課題

史跡指定地の後円部及び東側の管理用通路は宮内庁が陵墓として管理している。周濠は、かつて溜池として利用されていたが、現在は用水などの流入はない。また、周濠南西隅に位置する祠が、濠の外肩と接している。宮内庁管理用地はコンクリート柱に鉄線張の柵で囲まれている。古墳の南東隅に管理用の通路があり入り口には史跡標柱がある。また、後円部西側に説明板をネットフェンスに供架している。丸保山古墳は、本市と宮内庁で古墳の管理を行っていることから、墳丘及び周濠の保全について、管理や対応を連携して行っている。墳丘の植生は、前方部上にアキニレやクロマツなどがまばらにあり、宮内庁が管理する後円部にはアベマキやナナミノキなどが自生する。また、堤にはウメなどの植栽がみられる。

周濠は、水面にはヨシなどの植物や藻類などが繁茂している。かつて、排水の施設がなく降雨量によって水位の上下が著しかったため、墳丘裾及び周濠の外肩に浸食がみられる。前方部は、公有化前に存在した建物のため上部が削平されている。更に、建物の基礎や配管、コンクリート枠の井戸などが残されている。これまで大規模な発掘調査を行っておらず、改変前の前方部の形状は明らかでない。また、雨水により盛土の流出がみられ、墳丘及び樹木の損傷への対策が必要である。史跡の周囲はネットフェンスを挟んで道路に接し、幹線道路・中央環状線への抜け道となっており車の交通量が多く、見学者への安全確保が必要である。



史跡標柱と説明板（更新）

滞水により生じた浸食

墳丘上樹木と前方部の削平

管理用通路

南西隅に位置する祠

前方部上のコンクリート構造物

現状・課題

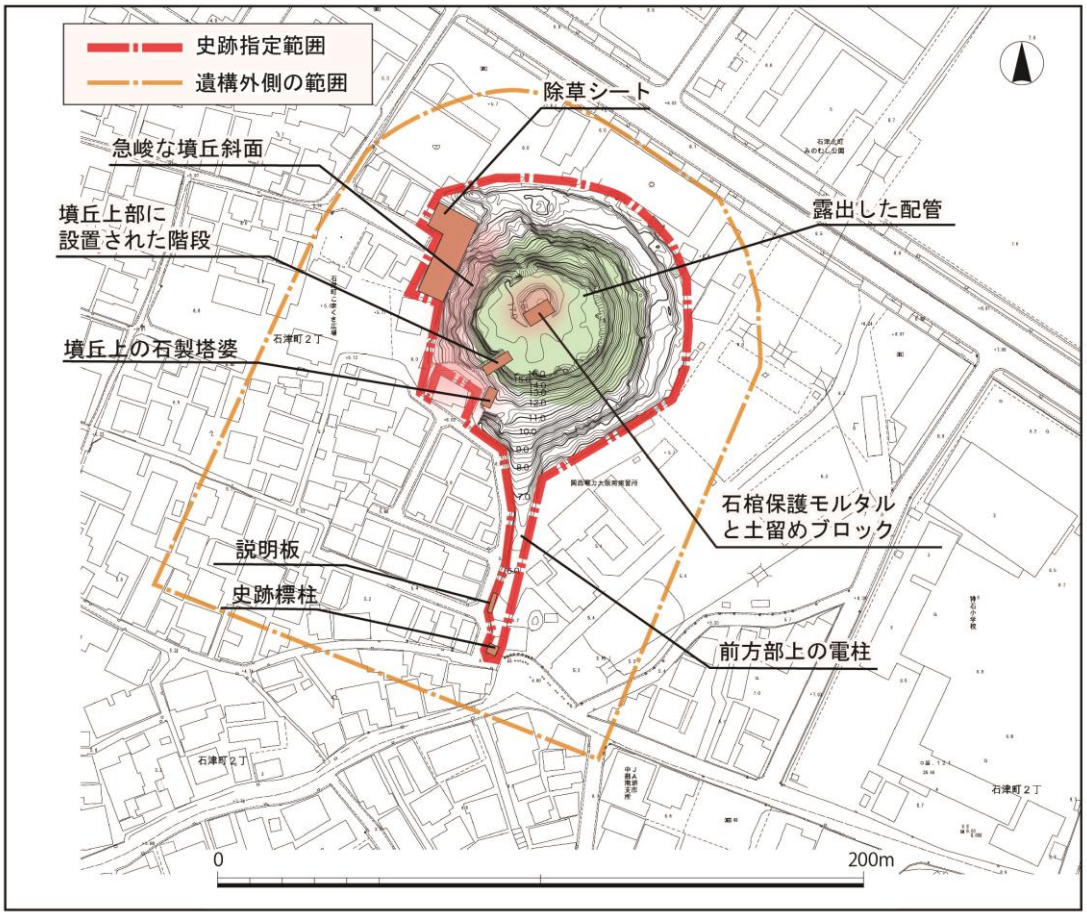
⑦乳岡古墳　　現状・課題

現在、前方部はわずかに細長い高まりが残るのみで、その大半は宅地や工場になっている。また、現在は埋没しているが、周濠の存在が確認されている。墳丘上にはエノキやアキニレなどの落葉樹のほか、ヤブツバキなどの常緑樹も点在する。また、墳丘の大半は草地に覆われており、更に、寺院があった墳頂部にはイロハモミジなどが点在している。墳頂部で確認した石棺は、現在、土留めブロックとコンクリートで覆うことで保護している。前方部の史跡境界はネットフェンスで囲まれている。前方部の史跡範囲内に電柱が設置されている。

接道が主に前方部南端に限られており、管理や見学に支障が生じている。

史跡指定前は墳丘上に寺院があり、現在も建物の礎石や半壊状態でアプローチの階段、塩ビ管や井戸などが露出した状態で残っている。石棺を覆っているモルタルや土留めブロックが経年劣化によりいたんでいる。

墳丘は裾の削平に伴う急斜面や崖面周辺で、土の流出が始まっている部分があり、これが進行するとすべりが生じる危険性があり、急峻な斜面下の民有地を追加指定、公有化し、斜面上には植生マットを施した。



石棺保護モルタルと土留めブロック

墳丘に設置された階段

墳丘上の石製塔婆
（1 基は府古文化記念物等保存顕彰規則指定）

露出した配管

急峻な墳丘斜面（更新）　前方部上の電柱

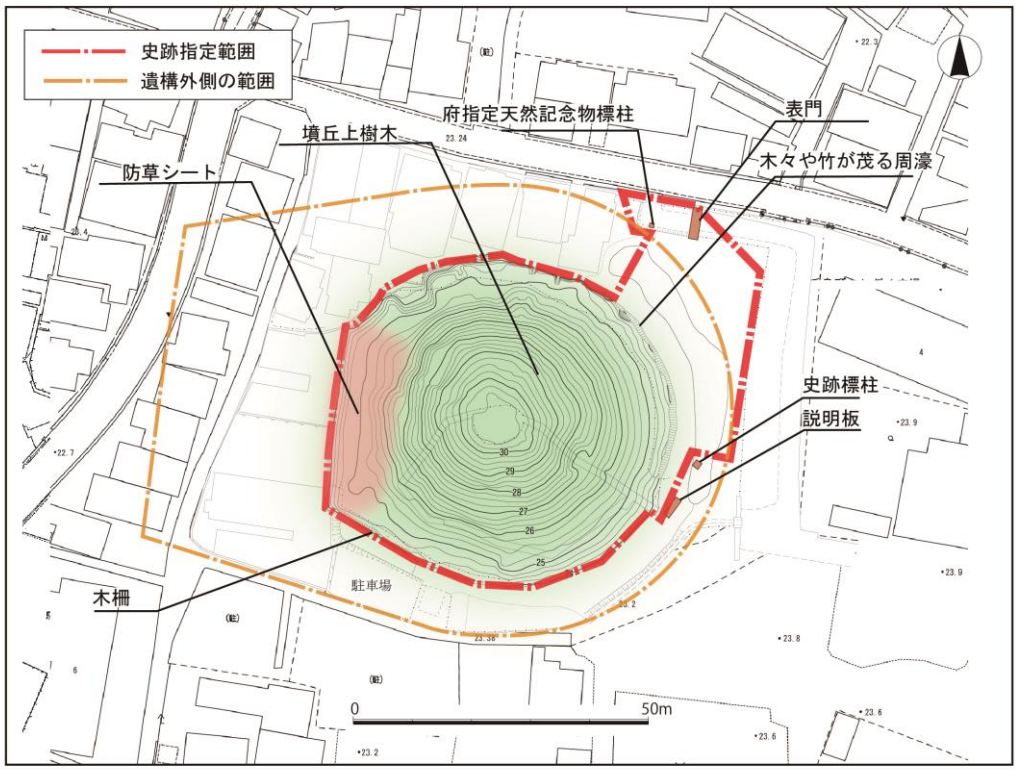
説明板（更新）

現状・課題

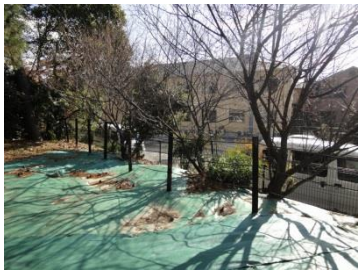
⑧御廟表塚古墳　　現状・課題

開発により、周濠の大半が埋められ、前方部が失われている。史跡指定範囲は、後円部及び北東隅に残された周濠である。かつて指定地が民有地であった時に、堺市緑の広場として園路や木柵を設置し整備され市民に公開されていた。緑の広場の園路や木柵は経年劣化でほとんど跡形もない状態で、整備が急がれる。公有化を行い、保存管理計画・整備基本計画に基づき適正な管理並びに整備に取り組んでいる。墳丘は、アベマキを中心とした落葉広葉樹で形成しており、部分的にクロマツやシュロがみられる。堤は、竹林となっていたが、整備に取り組む一環で除去し、墳丘を痛める要因の一つを取り除いた。また北東隅の池は、水の出入りはなく湿地状となっており、遺構を痛めるうえ、水質にも影響を与えるため対策が必要である。

後円部北側及び前方部は住宅地となっている。削平に伴うくびれ部の切断面付近には、防草シートが張られており、雨水が透水せず斜面を流れるため、排水の対策が必要である。また、史跡の範囲は北東隅しか接道しておらず、今後、管理や見学に支障が生じる可能性がある。



木製の縁石で整備された通路（更新）



境界部分に設置された木柵

防草シート

丸太で整備された階段（更新）

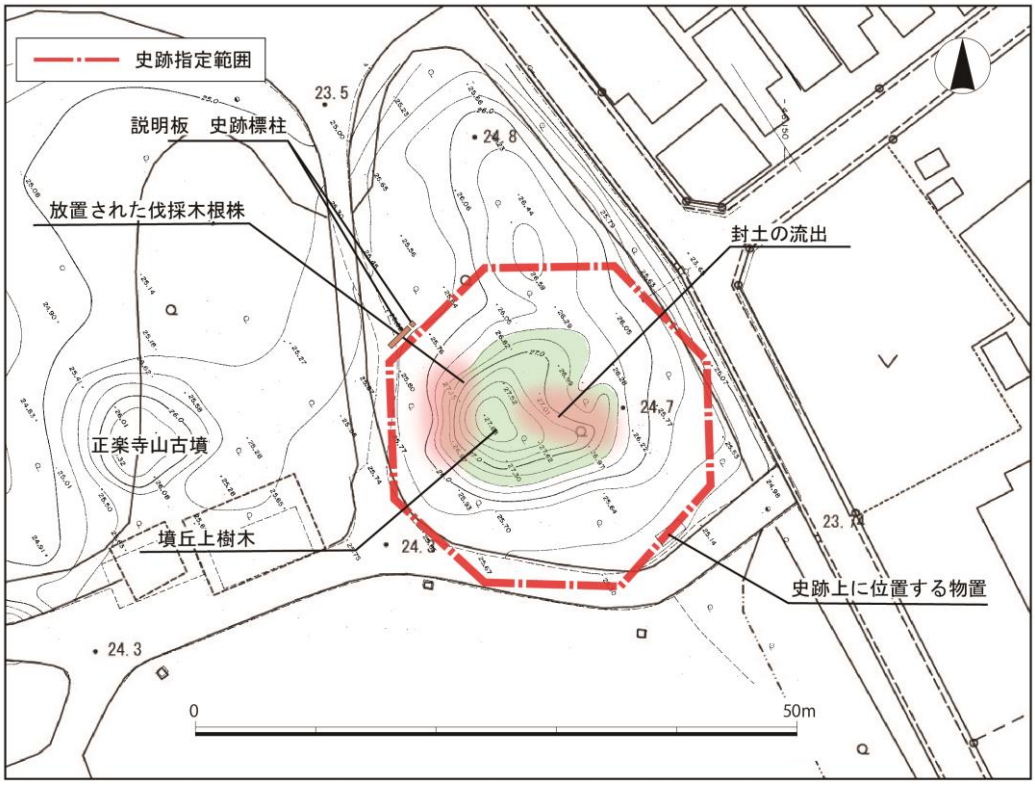
史跡標柱・説明板（更新）

木々や竹が繁る周濠（更新）

現状・課題

⑨ドンチャ山古墳　　現状・課題

古墳は公園内にあり、管理は保存管理計画に基づき公園部局が行っている。墳丘西側及び南側には園路が設置されている。墳丘上及び周辺には、アラカシやクロガネモチをはじめとする樹木が生育する。なお、わずかな範囲であるが、正楽寺山古墳、ドンチャ山古墳の範囲は、区画整理の造成を受けず旧状が保たれている。古墳南側のグラウンド及び北側、西側の森は公園整備による盛土がなされ、旧地形の把握が困難となっている。また、古墳の周囲には園路があり、古墳整備に際しては関係部局との調整が必要である。史跡標柱・説明板を設置したものの、周辺の樹木等と溶け込み、見学者が古墳を認識することが困難であり、見学者が古墳として認識できるよう、古墳の顕在化が必要である。



園路と墳丘

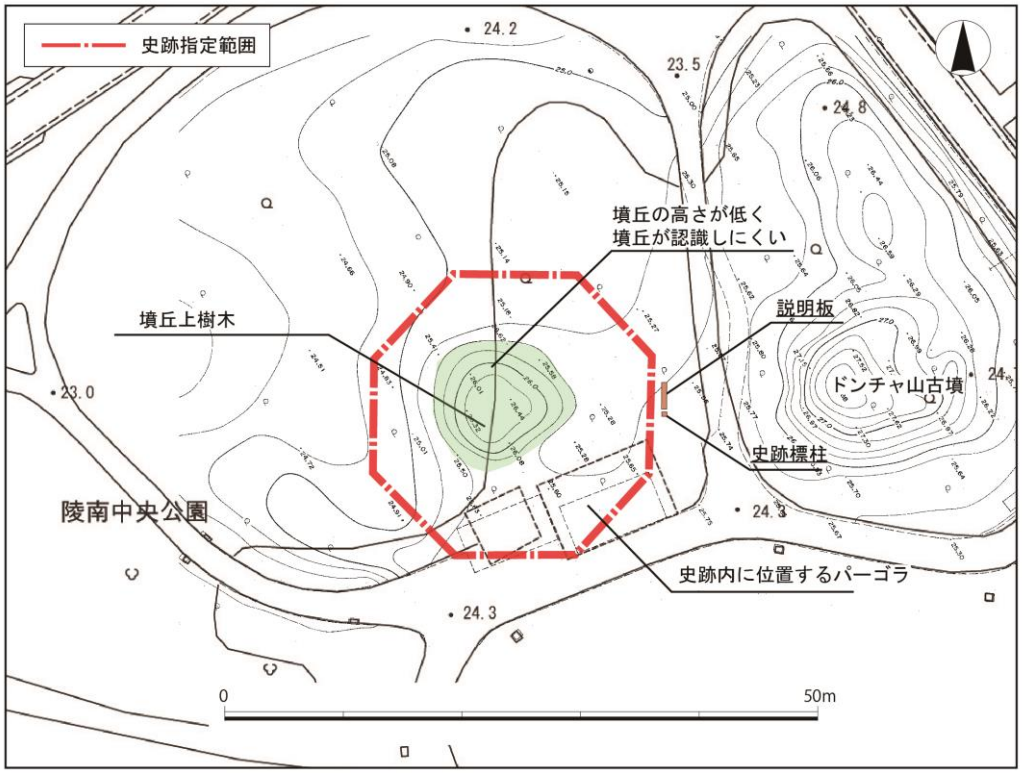
墳丘上樹木と伐採木根株

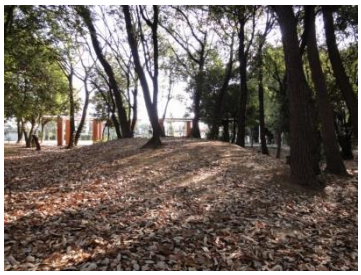
史跡境界上に位置する物置

現状・課題

⑩正楽寺山古墳　　現状・課題

古墳は公園内にあり、管理は保存管理計画に基づき公園部局が行っている。墳丘周辺には園路が南側にはパーゴラが設置されている。墳丘上及び周辺にはウバメガシやアラカシをはじめとする樹木が生育する。なお、わずかな範囲であるが、正楽寺山古墳、ドンチャ山古墳の範囲は、区画整理の造成を受けず、旧状が保たれている。古墳南側のグラウンド、及び北側、西側の森は公園整備による盛土がなされ、旧地形の把握が困難となっている。また、古墳南側の周濠部分にパーゴラが位置しており、古墳整備に際しては移転が必要である。史跡標柱・説明板を設置したものの、周辺の樹木等と溶け込み、見学者が古墳を認識することが困難であり、見学者が古墳として認識できるよう、古墳の顕在化が必要である。




周辺よりやや小高い墳丘

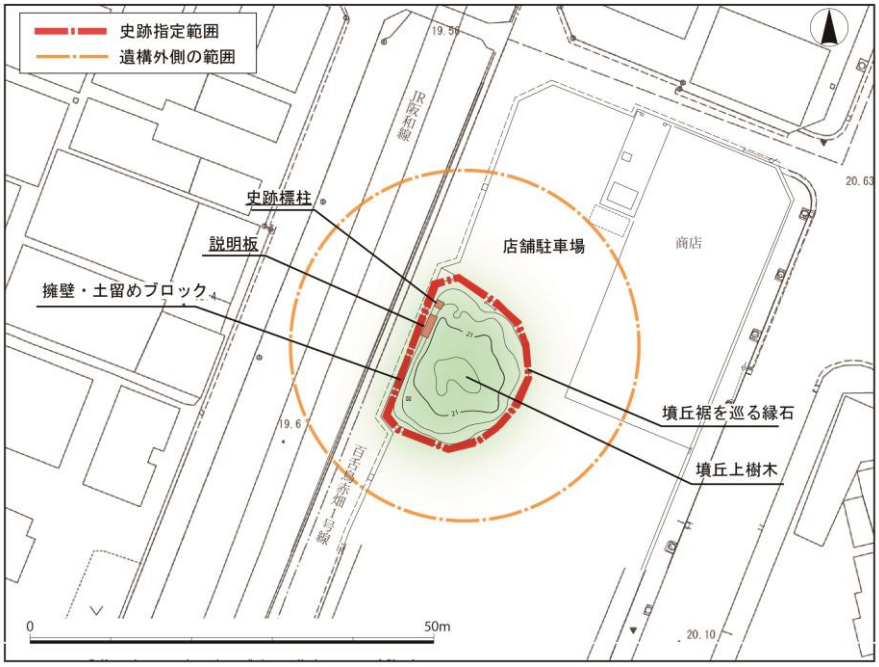
墳丘の認識が困難

史跡内に位置するパーゴラ

現状・課題

⑪鏡塚古墳　　現状・課題

史跡指定地は、頂部の視認できる墳丘の範囲であり、商業施設内に位置している。管理は各所有者が行っている。古墳の墳丘裾に縁石と擁壁を設置し、周囲は舗装され駐車場や道路となっている。古墳は、商業施設内の緑地となっており、ＪＲ線路側の墳丘に史跡標石・説明板を設置する。なお、周辺一帯は、区画整理により約 1m盛土造成がなされたため、墳丘頂部のみ露出していることから、古墳としての認識が困難となっている。



墳丘に接する道路や線路（更新）

周辺の店舗駐車場

史跡標柱・説明板（更新）

墳丘上の高木

墳丘裾を巡る縁石

道路際の擁壁と土留めブロック

現状・課題

⑫善右ヱ門山古墳　　現状と課題

私有地であり、保存管理は個人が行っている。墳丘は、西側道路からフェンス越しに見える。説明板は、西側フェンスに共架している。現存する墳丘は、特別養護老人ホームの緑地として残されている。墳丘上はナナミノキ、アラカシ、クロガネモチをはじめとする樹木が茂る。

古墳が私有地にあることから、道路から古墳を見学するための工夫が必要である。また善右ヱ門山古墳といたすけ古墳の間には道路と住宅があり、景観の遮断が生じている。

フェンス・擁壁

説明板（更新）

墳丘上の樹木

隣接した駐車場

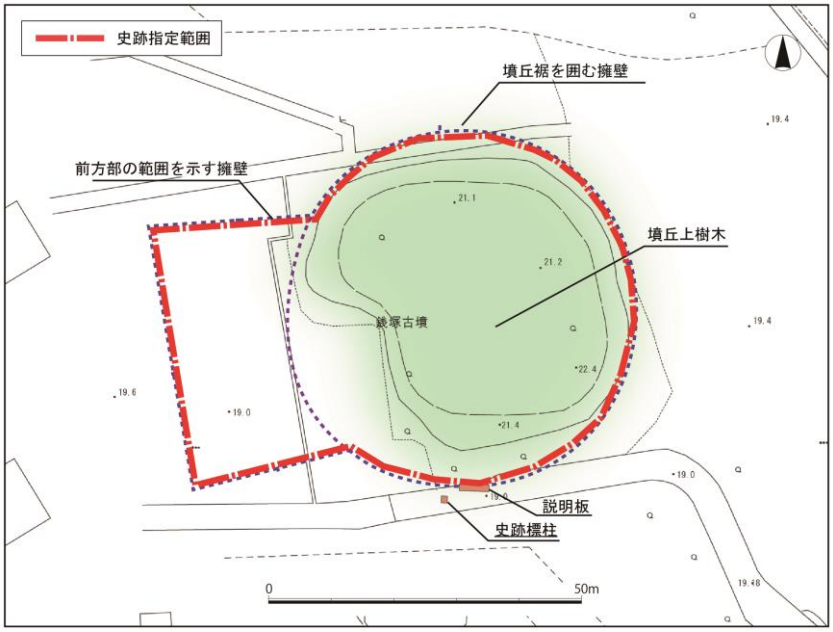
表土の流出

現状・課題

⑬銭塚古墳　　現状・課題

墳丘は後円部二段目上方並びに前方部が削平されているために、現状では扁平な円墳のような外観を呈している。平成 19 年度の調査成果によって、古墳復元範囲をコンクリート製の擁壁で囲み明示するとともに説明板を設置し、史跡指定後に史跡標柱を設置した。墳丘上には、アベマキやナナミノキをはじめとする樹木が生育する。

学校の敷地内に所在し、学校側で管理が行われ、学校敷地周囲にネットフェンスを設置しているため古墳の至近で見学することはできず、古墳の存在並びに形状が認識されにくい。



裾を擁壁で囲まれた後円部の墳丘

史跡標柱・説明板　（更新）

墳丘上の高木

範囲を擁壁で示した前方部

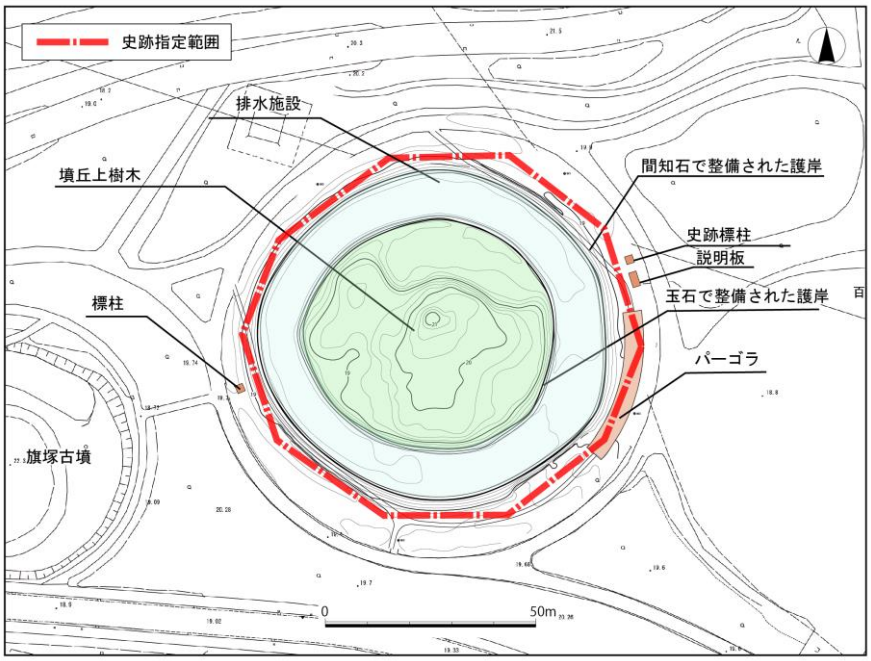
前方部端のスロープ

現状・課題

⑭グワショウ坊古墳　　現状・課題

古墳は大仙公園内に位置し、開発等に伴う破損や滅失の危険はない。一帯は昭和 44 年頃に公有化され、公園の一部として保存され、保存管理計画に基づき公園部局で管理が行われている。同古墳の西側には旗塚古墳が位置し、更に、谷を挟んで北東側には、かつて鳶塚古墳、原山古墳が存在していた。本墳を含む七観音古墳・旗塚古墳一帯の約 10ha は都市緑化植物園とし樹林の編成を見る森林推移実験見本園、水生・湿生植物園として修景されている。濠の周囲には園路が巡り、史跡の東端にはパーゴラが設置されている。墳丘上はシャシャンボやアラカシが自生するほか、ササの群落がみられる。

都市公園としての整備が先行しているため、墳丘は森林推移実験見本園として、樹木が密生し、周濠の東側にパーゴラが位置しており、古墳整備に際しては移転が必要である。



標柱

墳丘上の樹木

植生説明板（削除）
史跡標柱・説明板（追加）

間知石で整備された護岸

排水施設

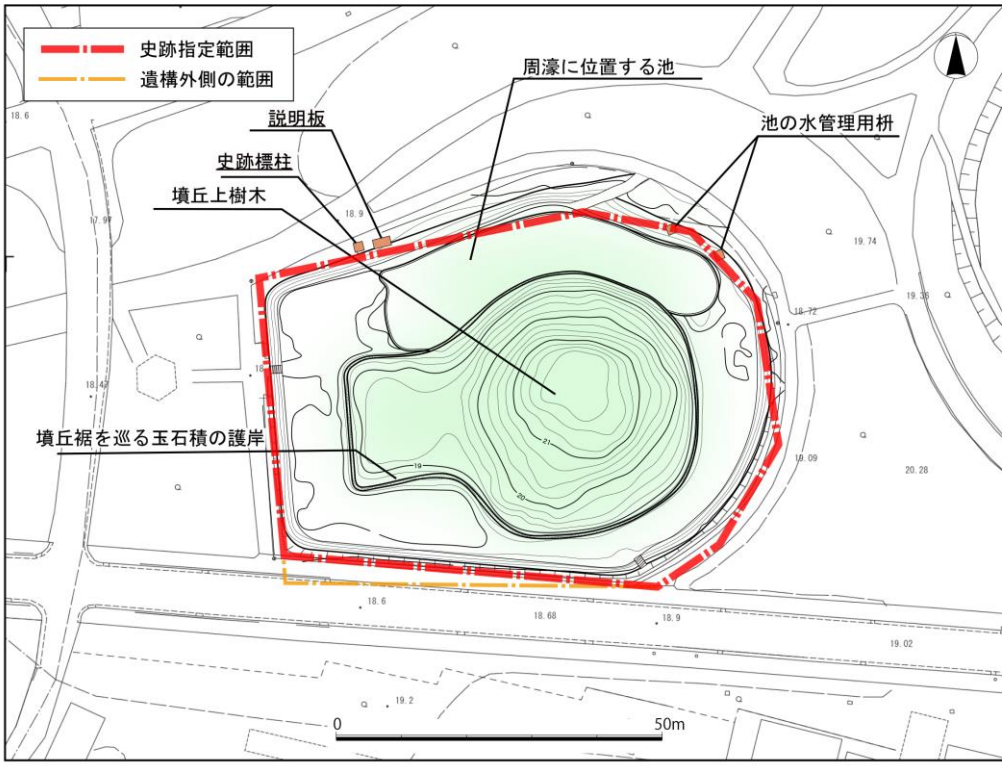
パーゴラ

現状・課題

⑭旗塚古墳　現状･課題

保存管理計画に基づき間伐を実施し、墳形の視認が可能となった。かつて大仙公園都市緑化植物園として位置づけられ、植物の自然の生態系を観察する森林推移実験見本園として修景されていた。大仙公園として公有化され、公園の一部として周囲を盛土で造成し、墳丘裾を玉石により墳丘整備し、墳丘は保存されている。周囲は盾形周濠に合わせた園路が巡っている。復元された北側の周濠の水のコントロールを目的に導水・取水施設を有する。墳丘はアラカシやアベマキなどの樹木が生育する。周囲の盛土により、古墳築造時の景観とかけはなれている。

公園整備では古墳本来の遺構の位置や形状、仕様とは異なり、八つ橋の基礎の飛石状のコンクリートブロックや導水施設、墳丘裾の石積などが存在していた。保存管理計画のもと、八つ橋の基礎の飛石状のコンクリートブロックを撤去し、古墳の顕在化に努めている。



墳丘上樹木と墳丘裾護岸（更新）

周濠に設置された飛石状コンクリートブロックと階段（削除）

周濠に位置する池と排水施設

周濠の水管理のために設置された枡

送水管に関連する施設

植生説明板（削除）
史跡標柱・説明板（追加）

現状・課題

⑯寺山南山古墳　　現状・課題

昭和 36 年頃に墳丘上に住宅が建設された際に、比高差４ｍ以上は残存していた墳丘は削平を受け、約半分の墳丘高になった。現在、当古墳を含めた周囲は、公有化され大仙公園予定地として保存されている。古墳の周囲には一部ネットフェンスが設置されている。また、古墳の南西側はフェンスに沿って植栽がある。墳丘上は樹木が茂るが、その大半はアカメガシワを中心とした落葉樹である。指定地南は当該公園の駐車場として整備され、履中天皇陵古墳の外周溝を明示している。

墳丘上に所在した住宅により墳頂部は削平されている。また、樹木の繁茂により古墳としての認識が困難ある。

墳丘上樹木とネットフェンス

墳丘裾の用水路跡

追加（史跡標柱・説明板）

史跡標柱・説明板（追加）

古墳としての認識が困難

史跡境界付近の枡

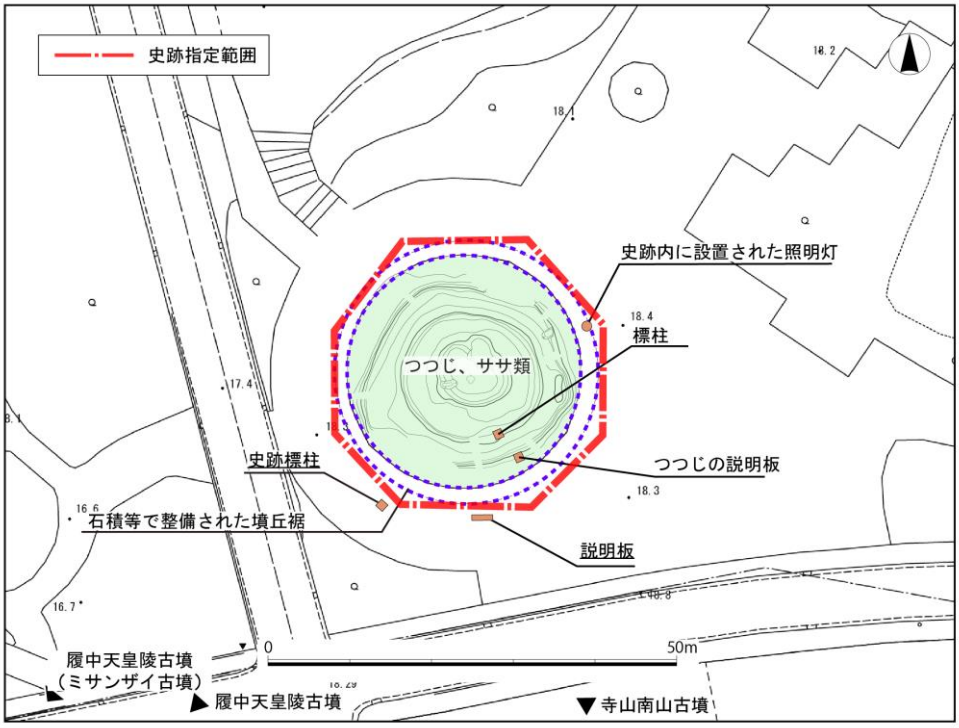
寺山南山古墳から見た
履中天皇陵古墳（ミサンザイ古墳）

現状・課題

⑰七観音古墳　　現状・課題

大仙公園として昭和 50 年度に公有化され、公園の一部として保存されている。墳丘は、一面につつじが植栽されている。ササ類が目立ち、標柱を覆い隠していたが、近年ササ類の適切な管理が行われている。

墳丘裾の土留石積や外側の縁石・皿型側溝と、墳丘の規模との相関関係がわかりにくい。



石積などで整備された墳丘裾

史跡内に設置された照明灯

ササ類に埋もれた標柱

植栽（つつじ）の説明板

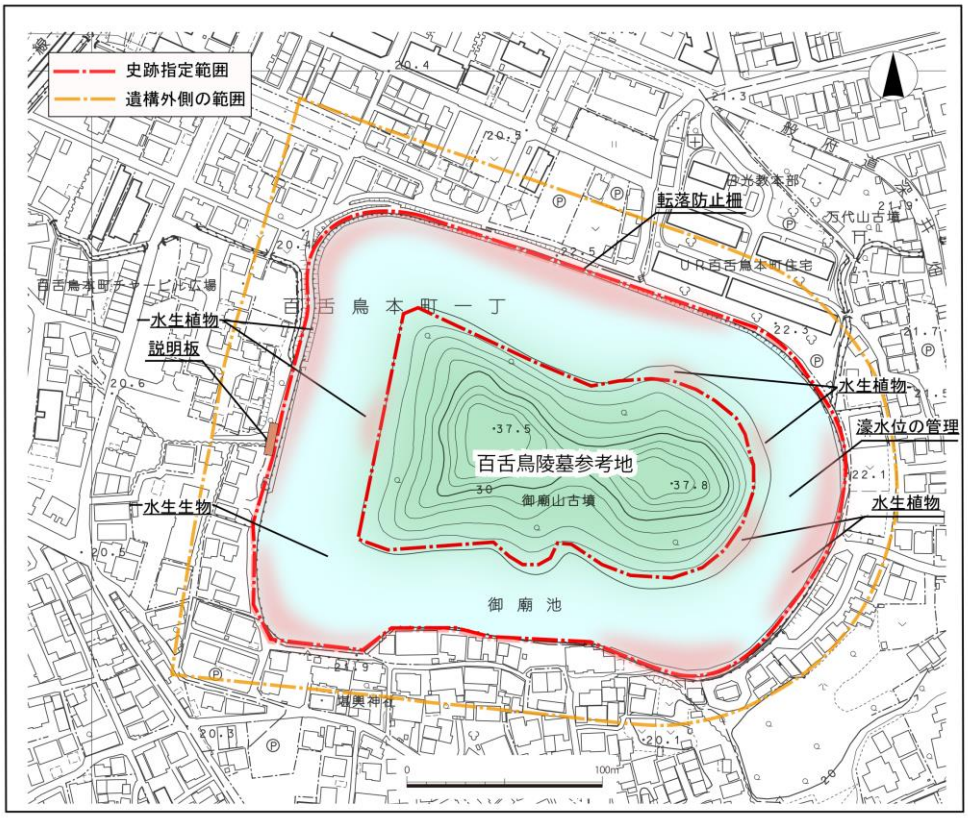
古墳の説明板（更新）
史跡標柱・説明板

七観音古墳から見た履中天皇陵古墳(ミサンザイ古墳)

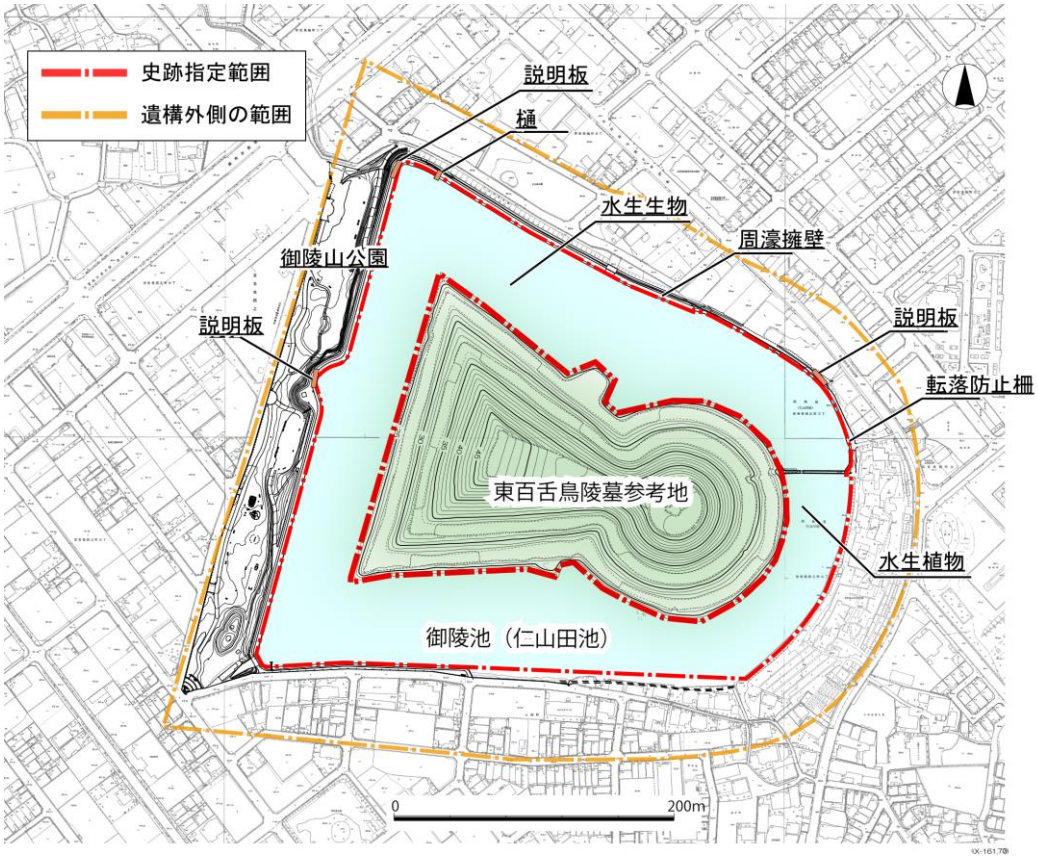
現状・課題

⑱御廟山古墳内濠　　現状・課題

平成 26 年度には墳丘下段斜面は、御廟池の波浪などで進行する浸食や崩落への対策として、宮内庁が護岸整備工事を実施した。事前調査により遺構等の状況を確認したうえで、墳丘裾部に砕石を詰めた布団かごを設置し、植生土嚢を積み上げるという工法による。砕石には葺石とは異なる石材を用い、峻別を可能とする配慮をした。堤側の斜面はコンクリート製護岸や擁壁で囲まれる。堤上はアスファルト舗装の道路またはインターロッキング舗装による遊歩道が整備されている。御廟池と呼称する内濠は主に地元自治会が管理していたが史跡指定を受けたのちに公有化し、擁壁並びに濠の水量や植生などの管理は文化財部局が行っている。維持管理の強化に努めることで墳丘を含め宮内庁とともに古墳の一体的な保全に取り組んでいる。近年、外来植物オオバナミズキンバイが発生し駆除を継続しているもののわずかな茎からでも簡単に増えるため生態系への影響が心配される。



⑲ニサンザイ古墳内濠　　現状・課題

平成 30 年度に墳丘下段斜面は、御陵池の波浪などで進行する浸食や崩落への対策として、宮内庁が護岸整備工事を実施した。宮内庁所管の他の古墳に比べ、下段斜面が急峻であったため、「補強土壁工」という工法を採用した。事前調査により遺構等の状況を確認したうえで、割栗石を敷き詰め、斜面を安定させた後、斜面上段に吸出し防止マット、植生シートを設置し、良質土を充填した。これにより、斜面下段は浸食が防止でき、上段は草が芽吹くことによって景観にも配慮した。割栗石は葺石とは異なる石材を用い、峻別を可能とする配慮をした。堤側の斜面はコンクリート製護岸や擁壁で囲まれる。堤上は後円部側の一部を除き、アスファルト舗装の道路や遊歩道が整備されている。

御陵池は昭和 51 年に公有化され、堺市が管理し公園部局が担当している。平成 28 年 4 月 11 日、「ニサンザイ古墳周濠」として堺市指定史跡に指定し、宮内庁管理の墳丘を含めた古墳の一体的な保全が図られている。